

レジメン登録フォーマット

申請年月日	令和5年11月28日	使用開始日	
登録診療科	乳腺外科	申請医師	小西宗治
レジメン名	フェスゴMA【維持】+ドセタキセル【2コース目以降】初発		
疾患名	乳がん	適応の備考	HER2陽性乳がんの術前術後補助化学療法 ※ドセタキセル併用4コース(12週間投与)終了後、フェスゴ単剤を用いる。 ドセタキセル併用時からの術前術後合わせて、フェスゴは12ヶ月(最大18コース)使用する。
適応分類	術前術後補助化学療法	総コース数	※初回・維持 合計 4 コース 催吐性リスク 軽度
1コース日数	21 日間		
抗がん剤投与量・投与日	フェスゴMA day1、ドセタキセル75mg/m <sup>2</sup> day1		

治療スケジュール・投与日程(投与日は●)		(day)																							
投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1	なし																								
	皮下注射	フェスゴ配合皮下注【MA】	10 mL / body		●																				
調製後4時間以内に使用 5分以上かけて皮下投与																									
2	主ルート	生食50mL	1 本 / body		●																				
	点滴静注	デキサート注6.6mg	1 本 / body	30 分	●																				
3	主ルート	生食250mL	1 本 / body		●																				
	点滴静注	ドセタキセル注	75 mg / m <sup>2</sup>	60 分	●																				
4	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●																				
	点滴静注																								

【投与上の注意】

・day1のデキサート注は、3.3mgでもよい。

このレジメンは、フェスゴ(ペルツズマブ、トラスツズマブ)2回目以降の投与患者に使用する。  
フェスゴ皮下注: 何らかの理由により予定された投与が遅れた場合には、以下のとおり投与することが望ましい。

- ①前回投与日から6週間未満のとき: 維持投与量(フェスゴ MA)を投与する。
- ②前回投与日から6週間以上のときには、改めて初回投与量(フェスゴ IN)を投与し、次回以降は維持投与量(フェスゴ MA)を3週間間隔で投与する。

フェスゴ皮下注: 初回投与時は、8分以上かけて大腿部に皮下投与、2回目以降は、5分以上かけて大腿部に皮下投与する。

フェスゴ皮下注: 大腿部以外への投与は避ける。

フェスゴ皮下注: 注射部位反応が報告されているため、同一箇所へ繰り返し注射することは避け、左右の大腿部に交互に投与する等、前回の注射部位から少なくとも2.5cm離す。

フェスゴ皮下注: 皮膚が敏感な部位、皮膚に異常のある部位(傷、発疹、発赤、硬結等)には注射しないこと。

フェスゴ皮下注: 初回投与時は30分の経過観察、2サイクル目以降は、Infusion reaction等の問題がなく、忍容性が良好であれば、観察時間は15分まで短縮可

・パージェタ+トラスツズマブ(IV)からフェスゴに切り替える場合

パージェタ+トラスツズマブ(IV)の直近の投与日から6週間未満のときにはフェスゴMA(維持投与量)を、6週間以上のときにはフェスゴIN(初回投与量)を投与し、その後は3週間毎にMA(維持投与量)を投与する。

・フェスゴからパージェタ+トラスツズマブ(IV)に切り替える場合

フェスゴの直近の投与日から6週間未満のときにはパージェタ、トラスツズマブともに維持投与量(パージェタ:420mg、トラスツズマブ:6mg/kg)を、6週間以上のときにはパージェタ、トラスツズマブともに初回投与量(パージェタ:840mg、トラスツズマブ:8mg/kg)を投与し、その後3週間毎に維持投与量を投与する。